

『ふるむ・マラウイ』～結婚式～

23th /July/2011 第21号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

マラウイに来て初めて、結婚披露宴に出席しました。この度ご結婚されたのは、デッサ農業開発事務所長の娘さんです。招待状を頂き、私を含め JICA ボランティア 3 名が出席しました。披露宴当日はデッサから会場のある首都リロングウェまで、ミニバスをチャーターして、出席者の皆と一緒に向かいました。この辺は、日本でも良くある風景です。披露宴の前に昼食が振る舞われます。この場合は、シマではなくお米がでます。付け合わせはチキンや牛肉の煮込みなど、普段のものと同じですが、マラウイでは冠婚葬祭やクリスマスなど家族にとって特別な日にはお米を食べる習慣があるそうです。



花嫁の入場



新郎新婦

以前親しい同僚が結婚をした際、食事会に招待されたときもそうでした。披露宴は、結婚立会人の挨拶、新郎新婦の両親の挨拶など、進行自体は日本とはあまり変わらないと思います。一番の違いは何かと言うと『ご祝儀タイム』があることです。各挨拶等のプログラムの間に、音楽が流れ、音楽に乗って出席者がご祝儀(お金)をどんどん籠に入れるということをします。一回にご祝儀を籠に入れるのは MK 200 位です。少額紙幣 (MK 20 ~ MK 100) をどんどん入れていきます。司会者はもっともっと入れる、高額紙幣を入れてく



ご祝儀タイム! (籠にお金をどんどん入れる)

れと煽ります。会場の片隅には、小額紙幣の両替コーナーも設けられるのも面白いなあと思いました。ご祝儀は日本では一括方式ですが、ここマラウイでは分割方式と表現した方が分かり易いかと思います。延々 4 時間 (!) 挨拶～ご祝儀タイムが繰り返され、当然私たちもお金を入れて行きます。ご祝儀を籠に入れるのが結構楽しくなって来るのが不思議ですが、長丁場なので少々疲れます。末永くお幸せに。



籠はご祝儀でいっぱい!